

先月、当社第59期の決算（11月20日締）ができました。完成工事高が445,266千円（昨対比80.10%）、経常利益が57,100千円（昨対比135.61%、利益率12.82%）純利益37,431千円（昨対比164.87%）でした。完成工事高では減収となりましたが、その他においては良い数字ができました。利益率は当社目標値の10%を数年振りに超える事が出来ました。この決算の最大の要素として、社員個々の原価意識の向上が大きかったと思います。故事にも「入るを量りて、出ざるを為す」とあります。これは収入を計算して、それに見合った支出にしなければいけないという謂いです。単純な引算です、『収入－支出＝利益』会社も家庭も個々の財布も一緒です。これは国の財政も一緒なはずですが…それはさて置き。社員個々がこの意識をベースに仕事に取り組む事が出来ているからこそその結果です。当社は直営の施工力を強みとしており、更にこの強みを高め、儲かる為の会社作りを致します。今期もよい結果が出ることを、ではなく出すことを!!

代表取締役社長 藤岡健一

今月のトピックス



今年も門松を製作し玄関に飾りました。社内には凧や掛け軸、繭玉など新春を祝う飾りで賑わっていました。



業務(着工・竣工等)

- 和田川浄水場 取水口監視カメラ設置工事を受注
- 富山市民病院 薬剤科他照明器具取替修繕を受注
- 速星中学校大規模改造及び校舎増築電気設備(その1)工事を竣工
- 主要地方道富山魚津線単独交通安全施設照明灯設置工事を竣工
- 大長谷第二発電所 菅沼ダム線2~12号柱電線更新工事を竣工
- 熊野川ダム河川総合交付金ダム天端外照明設備更新工事を竣工

その他

- ・1級電気工事施工管理検定実地試験に2名(前原、嶋谷<sup>※</sup>)が合格
  - ・第1種電気工事士実技試験に3名(山本、西、高木)が合格。
- (<sup>※</sup>は1度目の受験で合格)

石川県加賀市まで・・・(汗)

小松 則行



事の発端は昨年の暮れの話です。自分達は毎年フットサルのチームのメンバーで忘年会をしています。その日も居酒屋で忘年会を予定していて、自分と他のメンバー達が次々と集まり始め、ついに全員集合したところでチームのキャプテンが「今年もお疲れ様でした。来年も全力で走って勝ちましょう」という恐ろしい言葉で乾杯をしました。実際、キャプテンは自分よりも一つ年が上ですが、それを感じさせないくらいメチャクチャ走ります。そんなキャプテンの乾杯が終わり、会も盛り上がってきた時にチームのムードメーカー的メンバーが全員に「みんなあ！1月21日、開けといてね」と言ってきました。その日が日曜日だったせいもあり、ほとんどの人は「分かった」と答えました。そしてその後に「何あるが？」とメンバーの一人が質問をすると「フットサルに決まるとるやろ、練習試合やわ。」と返ってきました。酔った勢いもあり、たちまちその場はビッグマウスが飛び交いました。しかし、次の一言が全員を驚かせました。

「試合場所、加賀やから」・・・ムードメーカーからとんでもない一言が発せられました。理由を聞くと奥さんの姉のご主人が加賀でフットサルをやっていて単に試合を申し込まれただけなのですが、自分たちから見れば大ごとなのです。皆、慌てましたが「要は勝てば良い」という発言にまたもやビッグマウスの嵐。こうして初の県外遠征が決まりました。そして迎えた1月21日、全員がいざ加賀遠征に出発です。今更ですが自分は年末までの半年間、全く練習に参加していなかったので慌てて年始に2回ほど練習してこの日を迎えました。今思えばよく怪我をしなかったなと思います。現地に着いたのは午後1時くらいで、そこから準備やウォーミングアップ等を行い、午後2時からキックオフ。1試合目は自分が出場しなかったせいか楽勝でしたが2試合目は自分の出番。やはり年始の2回練習くらいでは体が

全然動けず足がモタモタになってしまいミスを連発しました。それでもなんとかチームは2連勝できました。その後も何試合かをし、気付けば午後4時半を回っていました。若い強いチームが遠征で県外へ試合に行くという話はちよくちよく聞きますが、自分たちのお笑いチームがまさか加賀まで行ってフットサルの試合をするとは思っていませんでした。でも、相手のチームもフェアプレーで自分たちと同じくらいの実力だったのでとても楽しく試合ができました。ちょっとした旅行みたいな感じだったので、また県外で試合があれば行ってみたいと思えた加賀遠征でした。

獅子奮迅

畠山 満喜子



北陸電設ニュースのNo.47から51まで、「北陸電設の歴史」というタイトルで畠山部長が当社の創業から現在に至る社史を記しています。創業者の畠山才次郎の長女としては、父から夫へ繋ぎ渡されてきた社業が並々ではない努力の積み重ねだったと、改めて思い至ります。感電事故を起こした時の父、人手不足に苦しんでいた時の夫、そんな非常時は勿論、平生にあっても二人ながら命を懸けて仕事に臨んでいました。深い敬意を覚えます。

部長は「創業者を偲んで」という文章も著わしています。五回に分けて書かれた、その五回目に平成十五年度は不況の中で、過去最高の利益率を記録しました。一方で、借金はそのまま、夏の賞与を決めあぐね、現、藤岡社長に相談すると、借金をなくして経営を立て直すことが先だと一蹴され、十五年夏の賞与は社歴史史上初のゼロでした。この瞬間に次は藤岡君と決めました。

と書いています。

平成20年11月に藤岡健一氏は社長に就任し、今年三代目社長の十年目にはいりました。以来、ずっと収益を出して黒字を保っています。不断の努力の結果です。

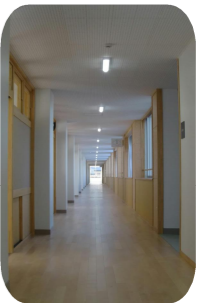
藤岡氏が社長となって間もなく、彼のお子さん二人がまだ幼いときに、私はこんな短歌を紹介しました。

父として幼き者は見上げ居りねがわくは金色の獅子<sup>こんじき</sup>とうつれよ

歌人佐佐木幸綱の一首です。幼い子たちの父は、子にとって金色の獅子のように強く立派な存在でありたいと願っているのです。この短歌は事務所の社長の机の上に置かれています。社長は今や、社員にとっての金色の獅子です。

三代の社長を見てこられたことは幸いでした。これからもそれとなく見続けていきたいと思っています。

速星中学校大規模改造及び校舎増築電気設備(その1)工事 完成写真



発注者：富山市  
受注者：北陸電設・北川電気工事 速星中学校  
大規模改造及び校舎増築電気設備  
(その1)工事共同企業体  
場 所：富山県富山市婦中町板倉地内  
着 工：平成28年10月11日  
竣 工：平成30年 1月11日

